

様式（第8条関係）

審議結果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和元年度 第1回 益田市環境審議会
開催日時	令和元年8月9日（金）午前10時00分～11時30分
開催場所	益田市立市民学習センター 2階 203研修室
出席者	審議会委員 出席8名 欠席7名 事務局 3名 事業者 アジア風力発電株式会社 4名 一般財団法人日本気象協会 3名
議題	(仮称)益田匹見風力発電事業に係る計画段階環境配慮書について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	4名
審議経過	
委員	○質疑応答 ・低周波による家畜への影響はないのか。
事業者	・現地調査をしながら現況把握したい。
委員	・住宅地から近いため住民に不安がある。地元への説明をきちんと して欲しい。
事業者	・匹見は豊かな自然と高津川の清流に誇りを持っている。工事による 濁水、鮎への影響に配慮して欲しい。
委員	・近隣26戸の中には空家も含むが、自然あっての里帰りやU・I ターン利用もあるため、空家だからと済ませないで欲しい。
事業者	・承知しました。
委員	・風車の寿命、作ってからのメンテナンスについて。
事業者	・寿命は25年と言われている。弊社の他事業でのメンテナンス実 績がある。会社の信用をかけて行っていきたい。
委員	・最短で民家800mとは距離的にどうか。45デシベルの基準について。
事業者	・風車からの距離も周囲の環境により騒音は異なるので一概には言 えない。もともと他の音がする所では風車音がかき消される場合 もある。基準値45デシベルというより、現状からどれぐらいの 数値が上がるかを配慮していく。
委員	・羽の高さ大きさについて、分かりやすく比較したい。
事業者	・県内の既存のものでは出雲3,000kW、江津2,300kWで、益田2,000 kWであり、出雲の大きさに近い。
委員	・現在、既存と計画中の風車もあるが、複合的な調査がある程度確 立しているのか。

事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・調査方法は確立されてない。各委員会より指摘を受けながら行う、開発段階である。最近環境省からの調査方法も流れてきているので選考されれば反映する。 ・既に稼働している側の既得権もあるので、新規側が責任をもって行う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・60,000 kWとはどのくらいの電力か。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・25,000 世帯分であり、中国電力が20年間買取する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「複数案の設定」について確認したい。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・想定区域の線の範囲内での複数案である。選考の段階で配置の検討や高さ等、複数の案や検討があるという意味である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・想定区域内の複数案と言われたが、設置はその中の尾根線状での移動しかできないはずなので、私は実質单一案と思っている。 ・「調査、予測及び評価の手法」やその評価をまとめた「重大な環境影響が与えられる項目についての評価結果」等の表現方法が違っている（“回避又は低減できる可能性が高い”と“回避又は低減されている”）。何が言いたいかというと、動物等は難しいと思うが、騒音または影等は理論的に予測できるはずなので、方法書以降で現地調査をきっちり行い、影響が回避又は低減できるのかをしっかりと見極めて示して欲しい。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・承知しました。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・評価者は誰か。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者が調査、予測し評価した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地質、岩盤も位置を決定するうえで必要でしょう。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーリング調査で決定する。浜田の風力発電事業では比較的安全な地層と聞いている。その延長線に近いので難しい地層とは思っていない。しっかりと調査する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地震は大丈夫か。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ断層は確認されていない。今後のボーリング調査でも確認を行っていく。

—議事終了—